

多いカーバイドの苦情

水俣 公害対策委が調査

「公害をなくし緑と太陽の町をつくらう」と水俣市議会内に設けられた公害対策特別委（淵上末記委員長）は七日午後一時から尚和会館で、丸島、百間地区の代表と懇談、状況や苦情を聞いた。

同地区はチツソ水俣工場に隣接しているため市内では最もひどい公害を受けている地域で、①カー

バイドのほこり②塩素ガス③梅戸港のリン鉱石積みおろしのさいの粉じんと騒音がひどいと苦情が多かった。このため引き続き同工場の粕野次長らに早急に改善するよう申し入れた。

工場側はカーバイドのほこりについては集じん装置の点検を確実にしてできるだけ出さないように

する。塩素ガスは新しい方式を検討中で試運転の段階まできている。梅戸港問題は当分現状のままだができるだけ粉じんと騒音が出ないようにする。将来はバキューム方式によって直接積みおろしをしたいと回答した。

市内五カ所における降下ばいじんの測定量は三十九年の一平方

あたり月平均五十トだったのが現在では五トと十分の一に減っており、騒音も同じく九十五ホン（三十九年）から七十ホン（四十一年）とよくなっているが、まだまだ公害防止の面から対策の必要があると同委員会では結論づけている。